災害ボランティア
防災・減災プログラム
講座・研修のご案内

講師派遣
受付中！

講師派遣は、お気軽にご相談ください！

語り出す

つながる

学ぶ

決める

つくる

育む

Since 1995.1.1.7

The NGO Collaboration Center
For HANSHIN Quake Rehabilitation

気軽にボランティアをしてみよう！
できることは自分で、できないことは一緒に

被災地NGO協働センター
〒652-0801　神戸市兵庫区中道通り2-1-10　TEL:078-574-0701　FAX:078-574-0702
E-mail:info@ngo-kyodo.org　HP:http://ngo-kyodo.org/
Facebook:https//www.facebook.com/KOBE1.17NGO

～ボランティアが社会を変える～

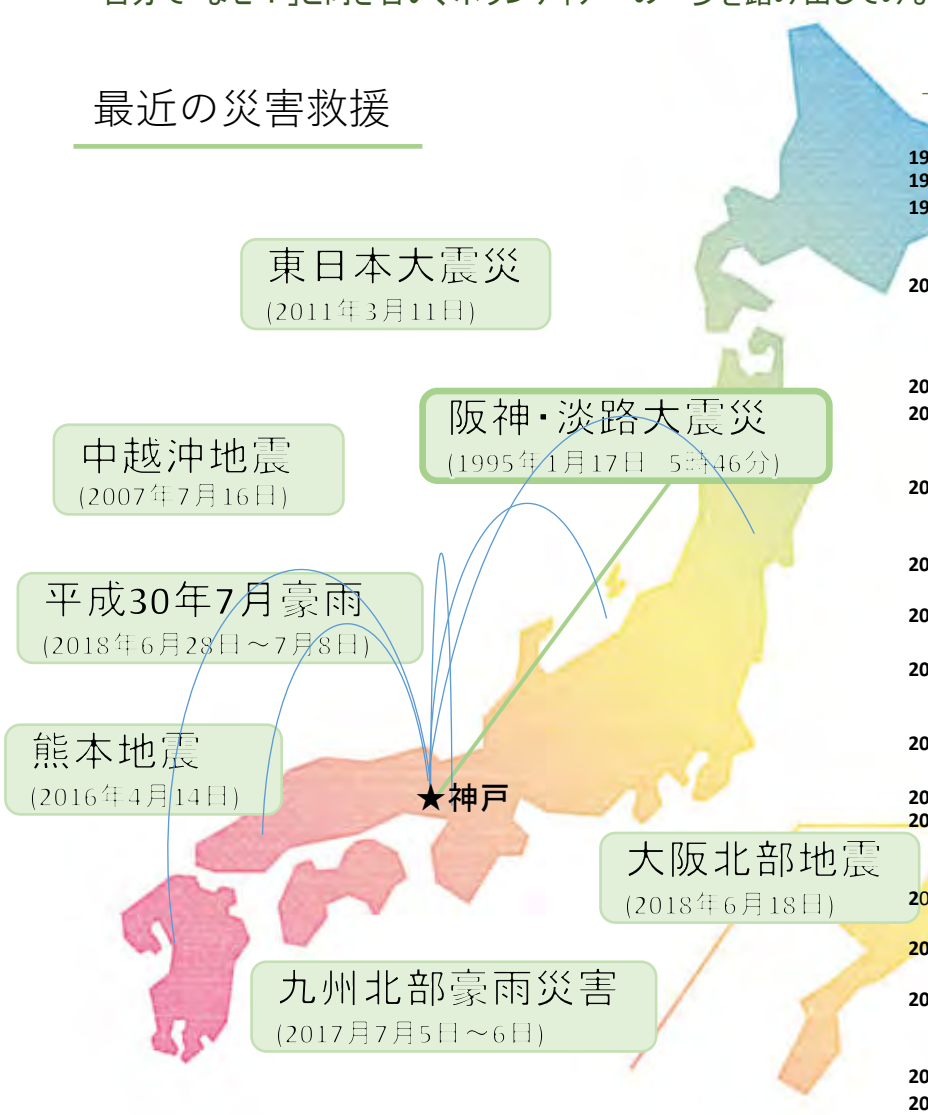
一歩を踏み出して、小さな実践を重ねよう！

阪神・淡路大震災では、実に多彩なボランティアが活動しました。人はいろいろな考え方をして、またさまざまな感性を持っています。つまり「十人十色」です。十人十色のボランティアがアイデアを駆使し、多様な活動を展開して支援のロープを投げるから、支援を受ける被災者はその中から自分に必要なロープを掴むことができます。

阪神・淡路大震災から振り返ると、大きな災害から小さな災害まで、数多くの災害が起きました。こうした災害のたびに、増え続ける災害関連死、避難所に行くことができず自宅にとどまるしかない障害者の課題、災害時要援護者の救助、子どもたちへの心のケア、言葉がわからず制度による支援が受けられない外国人への対応、避難所の中に更衣室や授乳室がないなど女性に関わる問題、被災したことにより居場所がなくなるLGBTの方々…など様々な課題が繰り返し問題となり、どれも十分に解決されないままに現在を迎えているのではないでしょうか？

こうした問題にどのように向き合えばよいのでしょうか。
自分で「なぜ？」と向き合い、ボランティアへの一歩を踏み出してみましょう！

最近の災害救援



過去の災害救援

1995年1月17日　阪神・淡路大震災
1998年8月　栃木・福島水害
1999年6月　神戸・新湊川水害
6月　広島・呉水害
10月　岩手・軽米水害
2000年3月　北海道・有珠山噴火災害
6月　伊豆諸島・三宅島噴火災害
3月　芸予地震
9月　高知県西部水害
2002年7月　台風6号（栃木）
2003年7月　宮城県北部連続地震
7月　九州豪雨
9月　北海道・十勝沖地震
2004年7月　新潟・福井豪雨
10月　新潟県・中越地震
10月　台風23号水害（淡路島・洲本市）
2005年3月　福岡県・西方沖地震
9月　宮崎水害
2007年3月　能登半島地震
7月　中越沖地震
2008年6月　岩手・宮城内陸地震
8月　金沢水害
9月　愛知・岡崎水害
2009年7月　山口県・防府市水害
8月　兵庫県・佐用町水害
2010年7月　山口県・山陽小野田市水害
2011年1月　宮崎県・新燃岳噴火災害
3月　東日本大震災
8月　紀伊半島水害
2012年7月　九州北部水害
8月　京都南部豪雨水害
2013年7月　山口・島根豪雨
9月　福知山水害
2014年8月　徳島・高知水害
8月　丹波市水害
8月　広島土砂災害
2015年9月　東北・関東豪雨災害
2016年4月　熊本地震
2017年7月　九州北部豪雨災害
2018年6月　大阪北部地震
2018年7月　西日本豪雨

阪神・淡路大震災から20年
KOBE市民とNGOフォーラム2015
10のアクションプラン

阪神・淡路大震災から20年KOBE市民とNGOフォーラム2015に集まった人々との講義を元に宣言文を作り上げました。その宣言文を元に、これからの社会を担う若い世代を中心にとして、今後どうやって生きていくのかを考えました。そのアクションプランを以下に示します。

一、 いのちを大切にしよう
どんなときでも命を大切にすることが大前提。自分のいのちだけでなく、まわりのいのちも大切にしよう。

一、気軽にボランティアをしてみよう
何もできないかもしれないけど、何かできるかもしれないと思って続けたら、何でもできることに気づく。

一、できることは自分で、できないことは一緒に
個を尊重し、自分と向き合い、人とつながろう。

一、考えてつながろう
一方的なつながりにならず、常に相手を想い、つながろう。人と人のつながりだけでなく、自然ともつながろう。

一、声なき声を聴こう
一人ひとりに寄り添って声を聴こう。すべての人に目配り・気配り・心配りをしよう

一、見えないモノ、見えないコトを考えよう
想像力を働かせて、目の前の人の問題を社会全体に拡げて考えよう

一、時には“ アホ ” になってみよう
型にとらわれず、そこそこ自由な発想で行動しよう。そして相手の意見を尊重し、先入観にとらわれないように聞こう

一、まずは一歩を踏み出して、小さな実践を重ねよう
頭でっかちに考えるのでなく、一歩踏み出して体験してみよう。自分にとっての身近な実践を積み重ねよう

一、「覚悟」を持って生きよう
一歩を踏み出すための勇気を持とう

一、「いま」を大切に生きよう
過去、現在、未来のつながりを想像しよう

講座　～災害ボランティアって？～

時間：60分～120分　入門

■被災地のお手伝いがいしたい！

自然災害に関する一般知識、被災地で注意するべきケガや病気、ボランティアの活動の種類、心構えや持ち物などを解決します！
災害ボランティアの経験・未経験を問わず、セミナーでわかりやすく学びましょう。ボランティアの活動グッツも紹介します。

内容

① 講義・レクチャー
　災害の種類と基礎知識
② ワークショップ
③ まとめ

対象

・はじめてボランティアに参加したい人
・経験者だが、もう一度学んでみたい人

図上訓練　～もしもが起きる前に～

入門～上級まで

時間：90分～180分

■地域を守る

災害時に自分の住んでいる地域で被害が起きたらどう避難しますか？
地図を使ってロールプレイ型の訓練を行います！災害が起きる前に事前に備えておくことで、被害の軽減につながります。

内容

① 町の地図作り
② 災害シュミレーション
③ まとめ　＋a 避難所のワークショップ

対象

・災害に備えて行動を起こしたい人
・防災・減災に興味がある人

講習会　～足湯ボランティア～

時間：60分～120分　入門

■足湯ボランティアで、「ほっと」

何かしたいけれど、何をすればと思われている方、講義と実践でわかりやすくお伝えします。

内容

①講義（足湯について）
②実践練習

対象

力仕事は苦手だけど、災害ボランティアに参加した人

■足湯
　足をお湯につけて手を軽くさするというもので、足湯の際にこぼれる「つぶやき」には被災者の心のうちが隠されています。足湯ボランティアは心のケアの効果もあると言われています。水害や地震などの災害で被害を受けた地域へと継続的に通い、災害発生時には災害救援活動の一環として足湯ボランティアを行っています。

研修　～現場と運営のイメージトレーニング～

中級以上
時間：要相談

■現場を知ろう

被災地での活動をイメージできるように、被災地での活動経験をもとに、事例を紹介しながら学びます。

内容

①講義（災害VCの役割について）
②ワークショップ（ケーススタディ）
③企画運営（訓練全体のコーディネート等）

対象

・社協職員
・災害VCの運営に関わりたい人

研修　水害対応体験型研修

入門～上級まで

時間：60分～120分

■現場での対応能力を上げる

毎年必ずというほど発生する水害。その対応に関する知識、被災地で注意するべきケガや病気、家屋の浸水被害に対する対処や制度などを整理してお伝えします。
また、床の模型を活用することで実際の家屋を清掃していくイメージや気をつけるべき点、使用する道具などをわかりやすく解説します。

内容

① 講義・レクチャー
　水害の種類と基礎知識
② 体験型ワークショップ
③ まとめ

対象

・水害ボランティア活動に興味がある人
・浸水被害が懸念される地域の人

防災研修　～こんな時どうする～

時間：60分～180分　**入門**

■こんなとき、あなたならどう対応する？

災害が起きた時に自分はどのような対応を行いますか？
事例をもとに、様々な選択を迫られる災害時の対応をワークショップで体験してもらいながら、地域にあった対応を考えていきます。

内容

① 講義（災害の基礎知識）
② 災害時の＋ONE（プラスワン）研修
③ まとめ

対象

・災害に備えて行動を起こしたい人
・防災・減災に興味がある人

研修　避難所の運営はどうする？

入門～上級まで

時間：90分～180分

■避難所の実態とは？避難所の運営は？

災害が起きた際に多くの人が避難する避難所。
現在は、地域の方々が自主的に運営をすることが推奨されています。
そんな避難所の実態と、運営の方法について講義形式・ワークショップ形式で学んでいきます。

内容

① 講義・レクチャー
　避難所の実態と最近の傾向
② 体験型ワークショップ（HUGなど）
③ まとめ

対象

・避難所のボランティア活動に興味がある人
・避難所運営に携わることになっている人

・各プログラムの所要時間や難易度については、あくまで目安です。お申込みいただく方の希望に合わせてアレンジが可能ですので、参考程度に見ていただき、詳しくはお問い合わせください。

・そのほか、こちらに記載のない内容でも各種講演・研修ワークショップ、イベント出演等を承っています。

・当センターの詳しい活動内容、過去の講演実績などにつきましては、HPや事業報告をご覧ください。
HP：http://ngo-kyodo.org
事業報告：http://ngo-kyodo.org/organizationsummary/

心と心のキャッチボール　「まけないぞう」

壁掛けのお手ふきタオル

阪神・淡路大震災後KOBE発「生きがい協働事業」として、1997年にスタートしました。これは全国の方々から「一本のタオル運動」を通して、善意のタオルを被災者がぞうの形をした壁掛けタオルに変え、全国のみなさまに販売しているものです。

１つ作るごとに100円が被災者の直接の収入になります。2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地でも「まけないぞう」が作られ、被災者の方の心の励みとなっています。

購入方法

被災地NGO協働センター　まけないぞう事業部
TEL:078-574-0701　FAX:078-574-0702
オンラインショップ：http://makenaizou.cart.fc2.com/

★講師派遣は、お気軽にご相談ください！★

私達は、各種講演や研修の講師派遣を行っています。
内容や実施時間はご相談させていただきます。
一歩を踏み出したくなってきましたか‼

講師派遣金額の目安

1時間～1時間30分程度の研修の場合

30,000円～

＊ただし、ご予算に応じてご相談可能です。
＊講師の旅費交通費等については実費を請求させていただいています。

TEL:078-574-0701　FAX:078-574-0702
E-mail:info@ngo-kyodo.org